

北陸新幹線（敦賀・新大阪間）計画段階環境配慮書案
 に対する京都市環境影響評価審査会委員からの主な意見

令和元年6月21日に開催した令和元年度第2回京都市環境影響評価審査会での意見を下表に取りまとめた。

		主な意見	答申案
全般的事項	環境要素	(特になし)	記載なし
	複数案	<ul style="list-style-type: none"> ○ いくつかのルート幅に絞れるはず。地下水影響を本当に回避するため、複数のルート幅でも出してもらいたい。 ○ 活断層を避けると書きながらそこが含まれている。活断層を避ける案を提示すべきではないか。 	<p>今後、ルートの検討に当たっては、地下水の保全や活断層の安全性に十分配慮するとともに、病院や学校等の社会的環境も考慮すること。</p>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ できるだけ情報を出して、幅広く意見を求めるべきである。 ○ 図の縮尺が小さく、詳細に示されていない。 ○ 自然環境・社会環境との影響をバランスよく検討すること。 	<p>本答申を踏まえ、今後の事業推進に当たっては、地下水をはじめとする京都の豊かな自然環境、文化財、市民生活や経済活動などに影響が及ばないように、丁寧な調査と説明を行うこと。</p>
地下水の水質及び水位	(再掲) 地下水影響を本当に回避するため、複数のルート幅でも出してもらいたい。	<p>京都市は、地下水が豊富であり、生活や産業等において幅広く活用されていることから、地下水の水質及び水量への影響を可能な限り回避・低減するため、十分な調査及び配慮を行うこと。</p>	
その他	<p>工事中の影響は法令的に配慮書段階では除外できるとはいえ、住民にとっては工事中の影響が重要である。</p>	<p>本事業の実施に当たっては、工事中の影響が大きいことから、工法や工事関係車両の通行など、市民生活や都市機能に影響のないよう検討すること。</p>	